



22文科初第1号
平成22年5月11日

各都道府県教育委員会
各指定都市教育委員会
各都道府県知事
附属学校を置く各国立大学長
構造改革特別区域法第12条第1項の
認定を受けた地方公共団体の長

殿

文部科学省初等中等教育局長

金森越哉



(印影印刷)

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の
学習評価及び指導要録の改善等について（通知）

このたび、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月24日）（以下「報告」という。）がとりまとめられました。

「報告」においては、学習指導要領において示された基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度の育成が確実に図られるよう、学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善すること等が重要とされています。また、保護者や児童生徒に対して、学習評価に関する仕組み等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして学習評価に関する情報をより積極的に提供することも重要とされています。

指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものであり、各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿です。

文部科学省においては、「報告」を受け、各学校における学習評価が円滑に行われ

るとともに、各設置者による指導要録の様式の決定や各学校における指導要録の作成の参考となるよう、学習評価を行うに当たっての配慮事項、指導要録に記載する事項及び各学校における指導要録の作成に当たっての配慮事項等を別紙1～6のとおりとりまとめました。

については、下記に示す学習評価を行うに当たっての配慮事項及び指導要録に記載する事項の見直しの要点並びに別紙について十分に御了知の上、各都道府県教育委員会におかれては、所管の学校及び域内の市町村教育委員会に対し、各指定都市教育委員会におかれては、所管の学校に対し、各都道府県知事及び構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の長におかれては、所轄の学校及び学校法人等に対し、国立大学長におかれては、その管下の学校に対して、「報告」の趣旨も踏まえ、指導要録の様式が適切に設定され、新しい学習指導要領に対応した学習指導と学習評価が行われるよう、これらの十分な周知及び必要な指導等をお願いします。

さらに、幼稚園、特別支援学校幼稚部、保育所及び認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と小学校及び特別支援学校小学部との緊密な連携を図る観点から、幼稚園等においてもこの通知の趣旨の理解が図られるようお願いします。

なお、平成13年4月27日付け13文科初第193号「小学校児童指導要録、中学校生徒指導要録、高等学校生徒指導要録、中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録、中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について」及び平成20年12月25日付け20文科初第1081号「小学校学習指導要領等に関する移行期間中における小学校児童指導要録等の取扱いについて」のうち、小学校及び特別支援学校小学部に関する部分は平成23年3月31日をもって、中学校（中等教育学校の前期課程を含む。以下同じ。）及び特別支援学校中学部に関する部分は平成24年3月31日をもって、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）及び特別支援学校高等部に関する部分は平成25年3月31日をもって、それぞれ廃止します。

記

1 学習評価の改善に関する基本的な考え方について

(1) 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要であること。その上で、新しい学習指導要領の下における学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要であること。

① きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること。

② 新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。

③ 学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

(2) 学習評価における観点については、新しい学習指導要領を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」に整理し、各教科等の特性に応じて観点を示している。設置者や学校においては、これに基づく適切な観点を設定する必要があること。

(3) 高等学校における学習評価については、引き続き観点別学習状況の評価を実施し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要があること。

(4) 障害のある児童生徒に係る学習評価の考え方は、障害のない児童生徒に対する学習評価の考え方と基本的に変わるものではないが、児童生徒の障害の状態等を十分理解しつつ、様々な方法を用いて、一人一人の学習状況を一層丁寧に把握することが必要であること。また、特別支援学校については、新しい学習指導要領により個別の指導計画の作成が義務付けられたことを踏まえ、当該計画に基づいて行われた学習の状況や学習の結果の評価を行うことが必要であること。

2 効果的・効率的な学習評価の推進について

(1) 学校や設置者においては、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるとともに、教師の負担感の軽減を図るため、国等が示す評価に関する資料を参考にしつつ、評価規準や評価方法の一層の共有や教師の力量の向上等を図り、組織的に学習評価に取り組むことが重要であること。

(2) その際、学習評価に関する情報の適切な管理を図りつつ、情報通信技術の活用により指導要録等に係る事務の改善を検討することも重要であること。なお、法令に基づく文書である指導要録について、書面の作成、保存、送付を情報通信技術を活用して行うことは、現行の制度上も可能であること。

(3) 今後、国においても、評価規準等の評価の参考となる資料を作成することとしているが、都道府県等においても、学習評価に関する研究を進め、学習評価に関する参考となる資料を示すとともに、具体的な事例の収集・提示を行うことが重要であること。

3 小・中学校及び特別支援学校小・中学部の指導要録について

(1) 小学校及び特別支援学校小学部の外国語活動について、設置者において、学習指導要領の目標及び具体的な活動等に沿って評価の観点を設定することとし、文章の記述による評価を行うこと。

(2) 特別活動について、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学

校において評価の観点を定めることができるようにすることとし、各活動・学校行事ごとに評価すること。

4 高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録について

各教科・科目の評定については、観点別学習状況の評価を引き続き十分踏まえること。

〔別紙1〕小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等

〔別紙2〕中学校及び特別支援学校中学部の指導要録に記載する事項等

〔別紙3〕高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録に記載する事項等

〔別紙4〕各学校における指導要録の保存、送付等に当たっての配慮事項

〔別紙5〕各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）

〔別紙6〕各教科の評価の観点及びその趣旨（高等学校及び特別支援学校高等部）

〔参考1〕

文部科学省ホームページ 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月24日）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm

〔参考2〕

各設置者における指導要録の様式の設定に当たっての検討に資するため、別添として指導要録の「参考様式」を示している。

小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等

I 学籍に関する記録

学籍に関する記録については、原則として学齢簿の記載に基づき、学年当初及び異動の生じたときに記入する。

1 児童の氏名、性別、生年月日及び現住所

2 保護者の氏名及び現住所

3 入学前の経歴

小学校及び特別支援学校小学部（以下、「小学校等」という。）に入学するまでの教育又は保育関係の略歴（在籍していた幼稚園、特別支援学校幼稚部、保育所又は認定こども園等の名称及び在籍期間等）を記入する。なお、外国において受けた教育の実情なども記入する。

4 入学・編入学等

(1) 入学

児童が第1学年に入学した年月日を記入する。

(2) 編入学等

第1学年の中途又は第2学年以上の学年に、在外教育施設や外国の学校等から編入学した場合、又は就学義務の猶予・免除の事由の消滅により就学義務が発生した場合について、その年月日、学年及び事由等を記入する。

5 転入学

他の小学校等から転入学してきた児童について、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。

6 転学・退学等

他の小学校等に転学する場合には、転学先の学校が受け入れた日の前日に当たる年月日、転学先の学校名、所在地、転入学年及びその事由等を記入する。また、学校を去った年月日についても併記する。

在外教育施設や外国の学校に入るために退学する場合又は学齢（満15歳に達した日の属する学年の終わり）を超過している児童が退学する場合は、校長が退学を認めた年月日及びその事由等を記入する。

なお、就学義務が猶予・免除される場合又は児童の居所が1年以上不明である場合は、在学しない者として取り扱い、在学しない者と認めた年月日及びその事由等を記入する。

7 卒業

校長が卒業を認定した年月日を記入する。

8 進学先

進学先の中学校又は特別支援学校中学部の学校名及び所在地を記入する。

9 学校名及び所在地

分校の場合は、本校名及び所在地を記入するとともに、分校名、所在地及び在学した学年を併記する。

10 校長氏名印、学級担任者氏名印

各年度に、校長の氏名、学級担任者の氏名を記入し、それぞれ押印する。
(同一年度内に校長又は学級担任者が代わった場合には、その都度後任者の氏名を併記する。)

なお、氏名の記入及び押印については、電子署名(電子署名及び認証業務に関する法律(平成12年法律第102号)第2条第1項に定義する「電子署名」をいう。)を行うことで替えることも可能である。

II 指導に関する記録

小学校における指導に関する記録については、以下に示す記載することが適当な事項に留意しながら、各教科の学習の記録(観点別学習状況及び評定)、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成する。

特別支援学校(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱)小学部における指導に関する記録については、小学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて、自立活動の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校(知的障害)小学部における指導に関する記録については、各教科の学習の記録、特別活動の記録、自立活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校小学部に在籍する児童については、個別の指導計画を作成する必要があることから、指導に関する記録を作成するに当たって、個別の指導計画における指導の目標、指導内容等を踏まえた記述となるよう留意する。また、児童の障害の状態等に即して、学校教育法施行規則第130条の規定に基づき各教科の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合又は各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合並びに特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成21年文部科学省告示第36号)第1章第2節第5の規定(重複障害者等に関する教育課程の取扱い)を適用した場合にあっては、その教育課程や実際の学習状況を考慮し、各教科等を合わせて記録できるようにするなど、必要に応じて様式等を工夫して、その状況を適切に記入する。

特別支援学級に在籍する児童の指導に関する記録については、必要がある場合、特別支援学校小学部の指導要録に準じて作成する。

1 各教科の学習の記録

小学校及び特別支援学校(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱)小

学部における各教科の学習の記録については、観点別学習状況及び評定について記入する。

特別支援学校（知的障害）小学部における各教科の学習の記録については、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す小学部の各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況等を文章で記述する。

(1) 観点別学習状況

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における観点別学習状況については、小学校学習指導要領（平成20年文部科学省告示第27号）及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下、「小学校学習指導要領等」という。）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における各教科の評価の観点について、設置者は、小学校学習指導要領等を踏まえ、別紙5を参考に設定する。また、各学校において、観点を追加して記入できるようにする。

(2) 評定

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における評定については、第3学年以上の各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。

各教科の評定は、小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「十分満足できる」状況と判断されるものを3、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを2、「努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「(1) 観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。

2 外国語活動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における外国語活動の記録については、評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については、設置者は、小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標を踏まえ、別紙5を参考に設定する。また、各学校において、観点

を追加して記入できるようにする。

3 総合的な学習の時間の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における総合的な学習の時間の記録については，この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で，それらの観点のうち，児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等，児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については，小学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ，各学校において具体的に定めた目標，内容に基づいて定める。その際，例えば，「よりよく問題を解決する資質や能力」，「学び方やものの考え方」，「主体的，創造的，協同的に取り組む態度」及び「自己の生き方」等と学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえて定めたり，「学習方法に関すること」，「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて定めたりすることが考えられる。また，教科との関連を明確にし，総合的な学習の時間の学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」，「思考・判断・表現」，「技能」及び「知識・理解」等と定めることも考えられる。

4 特別活動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における特別活動の記録については，各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で，各活動・学校行事ごとに，評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に，○印を記入する。

評価の観点については，小学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ，各学校において別紙5を参考に定める。その際，例えば，「集団の一員としての思考・判断・実践」にかかわる観点について，学校として重点化した内容を踏まえ，育てようとする資質や能力などに即し，より具体的に定めることも考えられる。

特別支援学校（知的障害）小学部における特別活動の記録については，小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における特別活動の記録に関する考え方を参考としながら文章で記述する。

5 自立活動の記録

特別支援学校小学部における自立活動の記録については，個別の指導計画を踏まえ，以下の事項等を記入する。

- ① 指導の目標，指導内容，指導の結果の概要に関すること
- ② 障害の状態等に変化が見られた場合，その状況に関すること
- ③ 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合，その検査結果に関すること

6 行動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における行動の記録については，各教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間，特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童の行動について，設置者は，小学校学習指導要領等の総則及び道徳の目標や内容，内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している別紙5を参考にして，項目を適切に設定する。また，各学校において，自らの教育目標に沿って項目を追加できるようにする。

各学校における評価に当たっては，各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に，○印を記入する。

特別支援学校（知的障害）小学部における行動の記録については，小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における行動の記録に関する考え方を参考としながら文章で記述する。

7 総合所見及び指導上参考となる諸事項

小学校等における総合所見及び指導上参考となる諸事項については，児童の成長の状況を総合的にとらえるため，以下の事項等を文章で記述する。

- ① 各教科や外国語活動，総合的な学習の時間の学習に関する所見
- ② 特別活動に関する事実及び所見
- ③ 行動に関する所見
- ④ 児童の特徴・特技，学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動，表彰を受けた行為や活動，学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
- ⑤ 児童の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては，児童の優れている点や長所，進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし，児童の努力を要する点などについても，その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

また，学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も，必要に応じ，記入する。

さらに，通級による指導を受けている児童については，通級による指導を受けた学校名，通級による指導の授業時数，指導期間，指導の内容や結果等を記入する。通級による指導の対象となっていない児童生徒で，教育上特別な支援を必要とする場合については，必要に応じ，効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を記入する。

特別支援学校小学部においては，交流及び共同学習を実施している児童について，その相手先の学校名や学級名，実施期間，実施した内容や成果等を記入する。

8 入学時の障害の状態

特別支援学校小学部における入学時の障害の状態について，障害の種類及び程度等を記入する。

9 出欠の記録

以下の事項を記入する。

(1) 授業日数

児童の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。学校保健安全法第20条の規定に基づき、臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。

この授業日数は、原則として、同一学年のすべての児童につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした児童については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした児童については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

(2) 出席停止・忌引等の日数

以下の日数を合算して記入する。

- ① 学校教育法第35条による出席停止日数、学校保健安全法第19条による出席停止日数及び感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条、第20条、第26条及び第46条による入院の場合の日数
- ② 学校保健安全法第20条により、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数
- ③ 忌引日数
- ④ 非常変災等児童又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数
- ⑤ その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

(3) 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

(4) 欠席日数

出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で児童が欠席した日数を記入する。

(5) 出席日数

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

なお、学校の教育活動の一環として児童が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。

また、平成15年5月16日付け15文科初第255号「不登校への対応の在り方について」や平成17年7月6日付け17文科初第437号「不登校児童生徒が自宅においてIT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について」に沿って、不登校の児童が適応指導教室等学校外の施設において相談・指導を受け、又は自宅においてI

I T等を活用した学習活動を行ったとき、そのことが当該児童の学校復帰のために適切であると校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに児童が通所若しくは入所した学校外の施設名又は自宅においてI T等を活用した学習活動によることを記入する。

(6) 備考

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に関する特記事項等を記入する。

中学校及び特別支援学校中学部の指導要録に記載する事項等

I 学籍に関する記録

学籍に関する記録については、原則として学齢簿の記載に基づき、学年当初及び異動の生じたときに記入する。

1 生徒の氏名、性別、生年月日及び現住所

2 保護者の氏名及び現住所

3 入学前の経歴

中学校及び特別支援学校中学部（以下、「中学校等」という。）に入学するまでの教育関係の略歴（在籍していた小学校又は特別支援学校小学部の学校名及び卒業時期等）を記入する。なお、外国において受けた教育の実情なども記入する。

4 入学・編入学等

(1) 入学

生徒が第1学年に入学した年月日を記入する。

(2) 編入学等

第1学年の中途又は第2学年以上の学年に、在外教育施設や外国の学校等から編入学した場合、又は就学義務の猶予・免除の事由の消滅により就学義務が発生した場合について、その年月日、学年及び事由等を記入する。

5 転入学

他の中学校等から転入学してきた生徒について、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。

6 転学・退学等

他の中学校等に転学する場合には、転学先の学校が受け入れた日の前日に当たる年月日、転学先の学校名、所在地、転入学年及びその事由等を記入する。また、学校を去った年月日についても併記する。

在外教育施設や外国の学校に入るために退学する場合又は学齢（満15歳に達した日の属する学年の終わり）を超過している生徒が退学する場合は、校長が退学を認めた年月日及びその事由等を記入する。

なお、就学義務が猶予・免除される場合又は生徒の居所が1年以上不明である場合は、在学しない者として取り扱い、在学しない者と認めた年月日及びその事由等を記入する。

7 卒業

校長が卒業を認定した年月日を記入する。

8 進学先・就職先等

進学先の学校名及び所在地、就職先の事業所名及び所在地等を記入する。

9 学校名及び所在地

分校の場合は、本校名及び所在地を記入するとともに、分校名、所在地及び在学した学年を併記する。

10 校長氏名印，学級担任者氏名印

各年度に、校長の氏名、学級担任者の氏名を記入し、それぞれ押印する。
(同一年度内に校長又は学級担任者が代わった場合には、その都度後任者の氏名を併記する。)

なお、氏名の記入及び押印については、電子署名（電子署名及び認証業務に関する法律（平成12年法律第102号）第2条第1項に定義する「電子署名」をいう。）を行うことで替えることも可能である。

II 指導に関する記録

中学校における指導に関する記録については、以下に示す記載することが適当な事項に留意しながら、各教科の学習の記録（観点別学習状況及び評定）、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成する。

特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における指導に関する記録については、中学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて、自立活動の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校（知的障害）中学部における指導に関する記録については、各教科の学習の記録、特別活動の記録、自立活動の記録、総合的な学習の時間、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校中学部に在籍する生徒については、個別の指導計画を作成する必要があることから、指導に関する記録を作成するに当たって、個別の指導計画における指導の目標、指導内容等を踏まえた記述となるよう留意する。また、生徒の障害の状態等に即して、学校教育法施行規則第130条の規定に基づき各教科の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合又は各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合並びに特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成21年文部科学省告示第36号）第1章第2節第5の規定（重複障害者等に関する教育課程の取扱い）を適用した場合にあっては、その教育課程や実際の学習状況を考慮し、各教科等を合わせて記録できるようにするなど、必要に応じて様式等を工夫して、その状況を適切に記入する。

特別支援学級に在籍する生徒の指導に関する記録については、必要がある場合、特別支援学校中学部の指導要録に準じて作成する。

1 各教科の学習の記録

中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における各教科の学習の記録については、観点別学習状況及び評定につ

いて記入する。

特別支援学校（知的障害）中学部における各教科の学習の記録については、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す中学部の各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況等を文章で記述する。

(1) 観点別学習状況

中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における観点別学習状況については、中学校学習指導要領（平成20年文部科学省告示第28号）及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下、「中学校学習指導要領等」という。）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。

中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における各教科の評価の観点について、設置者は、中学校学習指導要領等を踏まえ、別紙5を参考に設定する。また、各学校において、観点を追加して記入できるようにする。

選択教科を実施する場合は、各学校において観点を定め、記入する。

(2) 評定

中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における評定については、各学年における各教科の学習の状況について、中学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。

必修教科の評定は、中学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるものを5、「十分満足できる」状況と判断されるものを4、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを3、「努力を要する」状況と判断されるものを2、「一層努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

選択教科を実施する場合は、各学校が評定の段階を決定し記入する。

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「(1) 観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。

2 総合的な学習の時間の記録

中学校等における総合的な学習の時間の記録については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入す

る等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については、中学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて定める。その際、例えば、「よりよく問題を解決する資質や能力」、「学び方やものの考え方」、「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」及び「自己の生き方」等と学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえて定めたり、「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて定めたりすることが考えられる。また、教科との関連を明確にし、総合的な学習の時間の学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」等と定めることも考えられる。

3 特別活動の記録

中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における特別活動の記録については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

評価の観点については、中学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において別紙5を参考に定める。その際、例えば、「集団や社会の一員としての思考・判断・実践」にかかわる観点について、学校として重点化した内容を踏まえ、育てようとする資質や能力などに即し、より具体的に定めることも考えられる。

特別支援学校（知的障害）中学部における特別活動の記録については、中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における特別活動の記録に関する考え方を参考としながら文章で記述する。

4 自立活動の記録

特別支援学校中学部における自立活動の記録については、個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を記入する。

- ① 指導の目標、指導内容、指導の結果の概要に関すること
- ② 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること
- ③ 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること

5 行動の記録

中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における行動の記録については、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる生徒の行動について、設置者は、中学校学習指導要領等の総則及び道徳の目標や内容、内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している別紙5を参考

にして、項目を適切に設定する。また、各学校において、自らの教育目標に沿って項目を追加できるようにする。

各学校における評価に当たっては、各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

特別支援学校（知的障害）中学部における行動の記録については、中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における行動の記録に関する考え方を参考にしながら文章で記述する。

6 総合所見及び指導上参考となる諸事項

中学校等における総合所見及び指導上参考となる諸事項については、生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で記述する。

- ① 各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見
- ② 特別活動に関する事実及び所見
- ③ 行動に関する所見
- ④ 進路指導に関する事項
- ⑤ 生徒の特徴・特技、部活動、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
- ⑥ 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては、生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

また、学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も、必要に応じ、記入する。

さらに、通級による指導を受けている生徒については、通級による指導を受けた学校名、通級による指導の授業時数、指導期間、指導の内容や結果等を記入する。通級による指導の対象となっていない児童生徒で、教育上特別な支援を必要とする場合については、必要に応じ、効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を記入する。

特別支援学校中学部においては、交流及び共同学習を実施している生徒について、その相手先の学校名や学級名、実施期間、実施した内容や成果等を記入する。

7 入学時の障害の状態

特別支援学校中学部における入学時の障害の状態について、障害の種類及び程度等を記入する。

8 出欠の記録

以下の事項を記入する。

(1) 授業日数

生徒の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。学校保健安全法第20条の規定に基づき、臨時に、学校の全部又は学年の全

部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。

この授業日数は、原則として、同一学年のすべての生徒につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした生徒については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした生徒については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

(2) 出席停止・忌引等の日数

以下の日数を合算して記入する。

- ① 学校教育法第35条による出席停止日数、学校保健安全法第19条による出席停止日数及び感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条、第20条、第26条及び第46条による入院の場合の日数
- ② 学校保健安全法第20条により、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数
- ③ 忌引日数
- ④ 非常変災等生徒又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数
- ⑤ 選抜のための学力検査の受検その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

(3) 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

(4) 欠席日数

出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で生徒が欠席した日数を記入する。

(5) 出席日数

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

なお、学校の教育活動の一環として生徒が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。

また、平成15年5月16日付け15文科初第255号「不登校への対応の在り方について」や平成17年7月6日付け17文科初第437号「不登校児童生徒が自宅においてI.T等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について」に沿って、不登校の生徒が適応指導教室等学校外の施設において相談・指導を受け、又は自宅においてI.T等を活用した学習活動を行ったとき、そのことが当該生徒の学校復帰のために適切であると校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数及び生徒が通所若しくは入所した学校外の施設名又は自宅においてI.T等を活用した学習活動によることを記入する。

(6) 備考

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項，欠席理由の主なもの，遅刻，早退等の状況その他の出欠に関する特記事項等を記入する。

高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録に記載する事項等

I 学籍に関する記録

学籍に関する記録については、学年当初及び異動の生じたときに記入する。

学年による教育課程の区分を設けない課程（以下「単位制による課程」という。）の場合においては、生徒に係る記録は「年度」を単位として行う（指導に関する記録についても同様に扱う。）。

1 生徒の氏名、性別、生年月日及び現住所

2 保護者の氏名及び現住所

3 入学前の経歴

高等学校及び特別支援学校高等部（以下、「高等学校等」という。）に入学するまでの教育関係の略歴（在籍していた中学校又は特別支援学校中学部の学校名及び卒業時期等）を記入する。なお、外国において受けた教育の実情なども記入する。

4 入学・編入学

(1) 入学

校長が入学を許可した年月日を記入する。

(2) 編入学

高等専門学校、在外教育施設や外国の学校等から編入学した場合、過去に高等学校等に在学していた者等が入学した場合について、その年月日、学年等を記入する。また、単位制による課程の場合においては、当該生徒に係る校長が定めた在学すべき期間を記入する。

5 転入学

他の高等学校等から転学してきた生徒について、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地、課程の種類、学科名等を記入する。また、単位制による課程の場合においては、当該生徒に係る校長が定めた在学すべき期間を記入する。

6 転学・退学

他の高等学校等に転学する場合には、転学先の学校が受け入れた日の前日に当たる年月日、転学先の学校名、所在地、課程の種類、学科名、転入学年等を記入する。また、学校を去った年月日についても併記する。

退学する場合には、校長が退学を認め、又は命じた年月日等を記入する。

7 留学・休学

留学・休学について校長が許可した期間を記入する。留学の場合は、留学先の学校名、学年及び所在国名を記入する。

8 卒業

校長が卒業を認定した年月日を記入する。

9 進学先・就職先等

進学先の学校名及び所在地，就職先の事業所名及び所在地等を記入する。

10 学校名及び所在地，課程名・学科名

分校の場合は，本校名及び所在地を記入するとともに，分校名，所在地及び在学した学年を併記する。

11 校長氏名印，ホームルーム担任者氏名印

各年度に，校長の氏名，ホームルーム担任者の氏名を記入し，それぞれ押印する。（同一年度内に校長又はホームルーム担任者が代わった場合には，その都度後任者の氏名を併記する。）

なお，氏名の記入及び押印については，電子署名（電子署名及び認証業務に関する法律（平成12年法律第102号）第2条第1項に定義する「電子署名」をいう。）を行うことで替えることも可能である。

12 各教科・科目等の修得単位数の記録

修得した各教科・科目等ごとに修得単位数の計を記入する。

編入学又は転入学した生徒について，以前に在学していた学校において修得した単位を卒業に必要な単位として校長が認める場合には，その修得単位数を各教科・科目等の修得単位数として記入したり，以前に在学していた学校における修得単位数等に関する証明書等の資料を学籍に関する記録に添付したりすることにより，適切に記録する。

また，留学に関して，校長が認定した修得単位数は，それを記入する欄等に適切に記入する。

II 指導に関する記録

高等学校における指導に関する記録については，各教科・科目等の学習の記録（各教科及び科目の名称，それぞれの科目ごとの学年や年度ごとの評定及び修得単位数，それぞれの科目等の修得単位数の合計並びにそれぞれの科目等の履修上の特記事項等，総合的な学習の時間の学年や年度ごとの修得単位数及び総合的な学習の時間の修得単位数の合計並びに留学による学年や年度ごとの修得単位数及び留学による修得単位数の合計），総合的な学習の時間の記録，特別活動の記録，総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について作成する。

特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）高等部における指導に関する記録については，高等学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて，自立活動の記録及び入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校（知的障害）高等部における指導に関する記録については，各教科の学習の記録，特別活動の記録，自立活動の記録，学年ごとの総授業時数，入学時の障害の状態，総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について作成する。

特別支援学校高等部に在籍する生徒については、個別の指導計画を作成する必要があることから、指導に関する記録を作成するに当たって、個別の指導計画における指導の目標、指導内容等を踏まえた記述となるよう留意する。また、生徒の障害の状態等に即して、学校教育法施行規則第130条の規定に基づき各教科又は各教科に属する科目の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合又は各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合並びに特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年文部科学省告示第37号）第1章第2節第6款の規定（重度重複者等に関する教育課程の取扱い）を適用した場合にあつては、その教育課程や実際の学習状況を考慮し、各教科・科目等を合わせて記録するなど、必要に応じて様式等を工夫して、その状況を適切に記入する。

高等学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）高等部における指導に関する記録については、学年による教育課程の区分を設けるか設けないか等の違いにより、課程の単位の修得の認定の時期が異なることから、例えば、各教科・科目等の学習の記録を学年や年度、学期ごとに区分して記入するなど工夫する。

1 各教科・科目等の学習の記録

高等学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）高等部における各教科・科目等の学習の記録については、評定及び修得単位数について記入する。

(1) 各教科・科目の評定

① 各教科・科目の評定は、高等学校学習指導要領（平成21年文部科学省告示第34号）及び特別支援学校高等部学習指導要領（以下、「高等学校学習指導要領等」という。）に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総括的に評価して、「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるものを5、「十分満足できる」状況と判断されるものを4、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを3、「努力を要する」状況と判断されるものを2、「努力を要すると判断されるもののうち、特に程度が低い」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

② 評定に当たっては、知識や技能のみの評価など一部の観点に偏した評定が行われることのないように、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」といった観点による評価を十分踏まえながら評定を行っていくとともに、評定が教師の主観に流れて妥当性や信頼性等を欠くことのないよう学校として留意する。その際、別紙6に各教科の評価の観点及びその趣旨を示しているのので、これらを十分踏まえながらそれぞれの科目のねらいや特性を勘案して具体的な評価基準を設定するなど評価の在り方を工夫する。

③ 学校設定教科に関する科目のうち当該教科・科目の目標や内容等から数値的な評価になじまないものについては、評価は行わず、学習の状況や成果などを踏まえて、総合所見及び指導上参考となる諸事項に所見等を記述するなど、評価の在り方等について工夫する。

(2) 各教科・科目等の修得単位数

高等学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）高等部における各教科・科目等について、修得を認定した単位数を記入する。単位の修得を認めない場合は、「努力を要すると判断されるもののうち、特に程度が低い」のように評価を行う。

編入学又は転入学した生徒について、以前に在学していた学校において修得した単位を卒業に必要な単位として校長が認める場合には、その単位数を各教科・科目等の修得単位数として記入したり、以前に在学していた学校における修得単位数等に関する証明書等の資料を学籍に関する記録に添付したりすることにより、適切に記録する。

(3) 総合的な学習の時間の修得単位数

高等学校等における総合的な学習の時間における学習活動について、修得を認定した単位数を記入する。

(4) 留学による修得単位数

留学した生徒の外国の学校における学習の成果をもとに、校長が修得を認定した場合はその単位数を記入する。この場合、当該外国の学校の教育課程を逐一、我が国の学習指導要領や学校の教育課程と比較し、これらの教科・科目に置き換えて評価する必要はない。

なお、外国の高等学校の発行する修得単位数等に関する証明書等の資料を添付する。

(5) 他の学校において履修した場合の履修の取扱い等

校長が以下のような単位の認定を行った場合等は、履修上の特記事項として、備考欄に記入する。

① 高等学校学習指導要領第1章第3款2(2)に基づき、主として専門学科において開設される各教科・科目の履修により必履修教科・科目の一部又は全部に代えることを認める場合

② 学校教育法施行規則第97条に基づき、他の高等学校等において修得した一部の科目の単位について、生徒の在学する高等学校における全課程の修了を認めるに必要な単位数に加えることを認める場合

③ 同令第98条に基づき、大学等における学修、知識及び技能に関する審査に係る学修、ボランティア活動その他の継続的に行われる活動に係る学修等について、生徒の在学する高等学校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与える場合

④ 同令第100条に基づき、高等学校卒業程度認定試験規則の定めるところにより合格点を得た試験科目に係る学修及び高等学校の別科におけ

る学修で高等学校学習指導要領の定めるところに準じて、修得した科目に係る学修について、生徒の在学する高等学校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与える場合

- ⑤ 高等学校通信教育規程第12条第1項に基づき、通信制の課程の生徒について、その在学する高等学校の定時制の課程又は他の高等学校の定時制の課程若しくは通信制の課程において一部の科目の単位を修得したときに、それを生徒の在学する通信制の課程の全課程の修了を認めるに必要な単位数に加えることを認める場合（同第2項による場合も同様とする。）

特別支援学校（知的障害）高等部における各教科・科目等の学習の記録については、特別支援学校高等部学習指導要領に示す各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況等を文章で記述する。

2 総合的な学習の時間の記録

(1) 学習活動

高等学校等における総合的な学習の時間において行った学習活動を文章で記述する。

(2) 評価

各学校が定めた総合的な学習の時間の目標、内容に基づいて各学校が定めた評価の観点を踏まえて、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については、高等学校学習指導要領等に示す目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて定める。

3 特別活動の記録

高等学校等における特別活動において行った生徒の活動の状況について、主な事実及び所見を文章で記述する。その際、所見については、生徒の長所を取り上げるよう留意する。

4 自立活動の記録

特別支援学校高等部における自立活動については、個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を記入する。

- ① 指導の目標、指導内容、指導の結果の概要に関すること
- ② 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること
- ③ 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること
- ④ 特別支援学校高等部学習指導要領第1章第2節第5款第1の2の規定により、自立活動の授業時数を単位数に換算した場合の単位

5 総合所見及び指導上参考となる諸事項

高等学校等における総合所見及び指導上参考となる諸事項については、生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で記述する。

- ① 各教科・科目や総合的な学習の時間の学習に関する所見
- ② 行動に関する所見
- ③ 進路指導に関する事項
- ④ 取得資格
- ⑤ 生徒が就職している場合の事業所
- ⑥ 生徒の特徴・特技，部活動，学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動，表彰を受けた行為や活動，学力について標準化された検査に関する記録など指導上参考となる諸事項
- ⑦ 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見
 記入に際しては，生徒の優れている点や長所，進歩の状況などを取り上げるよう留意する。ただし，生徒の努力を要する点などについても，その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。
 特別支援学校高等部においては，交流及び共同学習を実施している生徒について，その相手先の学校名，実施期間，実施した内容や成果等を記入する。

6 入学時の障害の状態

特別支援学校高等部における入学時の障害の状態について，障害の種類及び程度等を記入する。

7 出欠の記録

全日制及び定時制の課程においては，以下の事項を記入する。

(1) 授業日数

生徒の属する学科及び学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。学校保健安全法第20条の規定に基づき，臨時に，学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。

ただし，転学又は退学をした生徒については，転学のため学校を去った日又は退学をした日までの授業日数を記入し，編入学又は転入学をした生徒については，編入学又は転入学をした日以後の授業日数を記入する。

なお，単位制による課程の場合においては，授業日数については，当該生徒の履修計画にしたがって出校すべき年度間の総日数を記入する。

(2) 出席停止・忌引等の日数

以下の日数を合算して記入する。

- ① 学校教育法第11条による懲戒のうち停学の日数，学校保健安全法第19条による出席停止の日数及び感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条，第20条，第26条及び第46条による入院の場合の日数
- ② 学校保健安全法第20条により，臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数
- ③ 忌引日数
- ④ 非常変災等生徒又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで，校長が出席しなくてもよいと認めた日数

⑤ 選抜のための学力検査の受検その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

(3) 留学中の授業日数

校長が許可した留学期間における我が国の在籍校の授業日数を記入する。

(4) 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数及び留学中の授業日数を差し引いた日数を記入する。

(5) 欠席日数

出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で生徒が欠席した日数を記入する。

(6) 出席日数

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

なお、学校の教育活動の一環として生徒が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。

また、平成21年3月12日付け20文科初第1346号「高等学校における不登校生徒が学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けている場合の対応について」に沿って、不登校の生徒が学校外の施設において相談・指導を受け、そのことが当該生徒の将来的な社会的自立を助ける上で適切であると校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数及び生徒が通所若しくは入所した学校外の施設名を記入する。

(7) 備考

出欠に関する特記事項等を記入する。

8 出校の記録

通信制の課程においては、以下の事項を記入する。

(1) 出校日数

実際に生徒が出校した年度間の総日数を記入する。この日数には、生徒が面接指導等のために、協力校、その他学校が定めた場所に出校した日数を含むものとする。ただし、転学又は退学をした生徒については、転学のため学校を去った日又は退学をした日までの出校日数を記入し、編入学又は転入学をした生徒については、編入学又は転入学をした日からその年度の終わりまでの出校日数を記入する。

(2) 備考

出校の状況に関する特記事項のほか、ラジオ、テレビ放送その他の多様なメディアの利用により、各教科・科目又は特別活動についての面接指導時間数の一部が免除された結果として出校する必要のなくなった日数等を記入する。

各学校における指導要録の保存、送付等に当たっての配慮事項

1 児童生徒が転学する場合は、学校教育法施行規則第24条第2項に基づいて進学元の校長等から送付を受けた指導要録の抄本又は写しを、同条第3項の規定により転学先の校長へ送付することとされており、この場合において、進学元（小学校にあつては、保育所及び認定こども園を含む。）から送付を受けた指導要録の抄本又は写しについては、進学してきた児童生徒が在学する期間保存すること。

2 配偶者からの暴力の被害者と同居する児童生徒については、転学した児童生徒の指導要録の記述を通じて転学先の学校名や所在地等の情報が配偶者（加害者）に伝わることを懸念される場合がある。

このような特別の事情がある場合には、平成21年7月13日付け21生参学第7号「配偶者からの暴力の被害者の子どもの就学について」に沿って、配偶者からの暴力の被害者と同居する児童生徒の転学先や居住地等の情報については、各地方公共団体の個人情報保護条例等に則り、配偶者暴力相談支援センターや福祉部局等との連携を図りながら、厳重に管理すること。

各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨
(小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部)

1. 各教科の学習の記録

国語

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 国語>

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	相手や目的、意図に応じ、話したり聞いたり話し合ったりし、自分の考えを明確にしている。	相手や目的、意図に応じ、文章を書き、自分の考えを明確にしている。	目的に応じ、内容をとらえながら本や文章を読み、自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて書いている。

<中学校 国語>

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かにしている。	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ、様々な文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 国語>

学年	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第1学年及び第2学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、進んで話したり聞いたり書いたり、楽しんで読書したりしようとする。	相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたり、話題に沿って話し合ったりしている。	経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書いている。	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく丁寧に書いている。
第3学年及び第4学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、工夫をしながら話したり聞いたり書いたり、幅広く読書したりしようとする。	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたり、進行に沿って話し合ったりしている。	相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書いている。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を形や大きさ、配列、筆圧などに注意して書いている。

観点 学年	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第5学年及び第6学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、適切に話したり聞いたり書いたり、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする。	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話したり、相手の意図をつかみながら聞いたり、計画的に話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書いている。	目的に応じ、内容や要旨をとらえながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を書く目的や用紙全体との関係、点画のつながりなどに注意して書いている。

<中学校 国語>

観点 学年	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第1学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えをまとめ、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする。	目的や場面に応じ、構成を工夫して話したり、意図を考えながら聞いたり、話題や方向をとらえて話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、構成を考え、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして文章に書いている。	目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえて、自分のものの見方や考え方を広くしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を楷書で書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。
第2学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えを広げ、読書を生活に役立てようとする。	目的や場面に応じ、立場や考えの違いを踏まえて話したり、考えを比べながら聞いたり、相手の立場を尊重して話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、構成を工夫し、伝えたいことが効果的に伝わるように文章を書いている。	目的や意図に応じ、内容や表現の仕方に注意して文章を読み、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。	伝統的な言語文化を楽しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、漢字の行書とそれに調和した仮名を書き、楷書又は行書を選んで書いている。
第3学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えを深め、読書を通して自己を向上させようとする。	目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開を工夫して説得力のある文章を書いている。	目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心をもち、効果的に文字を書いている。

社会

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 社会>

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
趣旨	社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

<中学校 社会>

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
趣旨	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 社会>

学年	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3学年及び第4学年	地域における社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。	地域における社会的事象から学習問題を見いだして追究し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて思考・判断したことを適切に表現している。	地域における社会的事象を的確に観察、調査したり、地図や各種の具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動、地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。
第5学年	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに、国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	我が国の国土と産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。

観点 学年	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第6学年	我が国の歴史と政治及び国際社会における我が国の役割に関心を持ち、それを意欲的に調べ、我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情をもつとともに、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることの自覚をもとうとする。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的な事象から学習問題を見いだして追究し、社会的な事象の意味についてより広い視野から思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的な事象を的確に調査したり、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解している。

<中学校 社会>

観点 分野	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
地理的分野	地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の特色について認識を養おうとする。	地理的事象から課題を見だし、日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどに関連付けて多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、映像など地域に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本や世界の諸地域について、その地域構成や地域的特色、地域の課題などを理解し、その知識を身に付けている。
歴史的分野	歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に立って我が国の伝統と文化について考え国民としての自覚をもとうとする。	歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解し、その知識を身に付けている。
公民的分野	現代の社会的な事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立ってよりよい社会を考え国民としての自覚をもって責任を果たそうとする。	現代の社会的な事象から課題を見だし、社会的な事象の意義や役割、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	統計や新聞、映像など現代の社会的な事象に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代社会についての見方や考え方の基礎、現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、社会的な事象の意義や役割、相互の関連などを理解し、その知識を身に付けている。

算数・数学

(1) 評価の観点及びその趣旨

＜小学校 算数＞

観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
趣旨	数理的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。

＜中学校 数学＞

観点	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
趣旨	数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

＜小学校 算数＞

学年	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
第1学年	数量や図形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもととする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、身の回りにある量の大きさを比較したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。
第2学年	数量や図形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもととするとともに、知識や技能などを進んで用いようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、長さや体積などを測定したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方、整数の計算の意味、長さや体積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。

期 学年	算数への関心・意欲・ 態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
第 3 学 年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数などの計算をしたり、長さや重さなどを測定したり、図形を構成要素に着目して構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、長さや重さなどの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第 4 学 年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数、小数及び分数の計算をしたり、図形の面積を求めたり、図形を構成要素の位置関係に着目して構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、面積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第 5 学 年	数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	小数や分数の計算をしたり、図形の内積や体積を求めたり、図形の性質を調べたり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の性質、分数の意味、小数や分数の計算の意味、面積の公式、体積の単位と測定の意味、図形の意味や性質及び数量の関係などについて理解している。
第 6 学 年	数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	分数の計算をしたり、図形の内積や体積を求めたり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、分数の計算の意味、体積の公式、速さの意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。

<中学校 数学>

学年	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
第1学年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	正の数と負の数の四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、基本的な図形の作図や図形の計量をしたり、関数関係を的確に表現したり、資料を整理したりするなど、技能を身に付けている。	正の数と負の数、文字を用いることの必要性和意味、一元一次方程式、平面図形についての性質や関係、空間における図形の位置関係、関数関係や比例・反比例、ヒストグラムや代表値などを理解し、知識を身に付けている。
第2学年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	文字を用いた四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について簡潔に表現したり、関数関係を的確に表現したり、確率を求めたりするなど、技能を身に付けている。	文字式のはたらき、連立二元一次方程式、平面図形の性質、図形の証明の必要性和意味及びその方法、一次関数の特徴、確率の必要性和意味などを理解し、知識を身に付けている。
第3学年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象に潜む関係や法則を見いだしたり、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	平方根を含む式の計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について簡潔に表現したり、関数関係を的確に表現したり、標本を抽出したりするなど、技能を身に付けている。	数の平方根の必要性和意味、式の変形の意味とはたらき、二次方程式、図形の相似の意味や円周角と中心角の関係の意味、三平方の定理の意味、関数 $y=ax^2$ の特徴、標本調査の必要性和意味などを理解し、知識を身に付けている。

理 科

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 理科>

観 点	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
趣 旨	自然に親しみ、意欲を もって自然の事物・現 象を調べる活動を行い、 自然を愛するとともに 生活に生かそうとする。	自然の事物・現象から 問題を見だし、見通 しをもって事象を比較 したり、関係付けたり、 条件に着目したり、推 論したりして調べるこ とによって得られた結 果を考察し表現して、 問題を解決している。	自然の事物・現象を観 察し、実験を計画的に 実施し、器具や機器な どを目的に応じて工夫 して扱うとともに、そ れらの過程や結果を的 確に記録している。	自然の事物・現象の性 質や規則性、相互の関 係などについて実感を 伴って理解している。

<中学校 理科>

観 点	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
趣 旨	自然の事物・現象に進 んでかかわり、それら を科学的に探究すると ともに、事象を人間生 活とのかかわりでみよ うとする。	自然の事物・現象の中 に問題を見だし、目 的意識をもって観察、 実験などを行い、事象 や結果を分析して解釈 し、表現している。	観察、実験を行い、基 本操作を習得するとと もに、それらの過程や 結果を的確に記録、整 理し、自然の事物・現 象を科学的に探究する 技能の基礎を身に付け ている。	自然の事物・現象につ いて、基本的な概念や 原理・法則を理解し、 知識を身に付けている。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 理科>

観 点 学年	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
第 3 学 年	自然の事物・現象に興 味・関心をもって追究 し、生物を愛護すると ともに、見いだした特 性を生活に生かそうと する。	自然の事物・現象を比 較しながら問題を見 だし、差異点や共通点 について考察し表現し て、問題を解決してい る。	簡単な器具や材料を見 付けたり、使ったり、 作ったりして観察、実 験やものづくりを行い、 その過程や結果を分か りやすく記録している。	物の重さ、風やゴムの 力並びに光、磁石の性 質や働き及び電気を働 かせたときの現象や、 生物の成長のきまりや 体のづくり、生物と環 境とのかかわり、太陽 と地面の様子などにつ いて実感を伴って理解 している。

観点 学年	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
第4学年	自然の事物・現象を興味・関心をもって追究し、生物を愛護するとともに、見いだした特性を生活に生かそうとする。	自然の事物・現象の変化とその要因とのかかわりに問題を見だし、変化と関係する要因について考察し表現して、問題を解決している。	簡単な器具や材料を見付けたり、使ったり、作ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を分かりやすく記録している。	空気や水の性質や働き、物の状態の変化、電気による現象や、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり、気象現象、月や星の動きなどについて実感を伴って理解している。
第5学年	自然の事物・現象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自然の事物・現象の変化とその要因との関係に問題を見だし、条々に着目して計画的に追究し、量的変化や時間的变化について考察し表現して、問題を解決している。	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を的確に記録している。	物の溶け方、振り子の運動の規則性、電流の働きや、生命の連続性、流水の働き、気象現象の規則性などについて実感を伴って理解している。
第6学年	自然の事物・現象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自然の事物・現象の変化とその要因との関係に問題を見だし、推論しながら追究し、規則性や相互関係について考察し表現して、問題を解決している。	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を的確に記録している。	燃焼、水溶液の性質、てこの規則性及び電気による現象や、生物の体の働き、生物と環境とのかかわり、土地のつくりと変化のきまり、月の位置や特徴などについて実感を伴って理解している。

<中学校 理科>

観点 分野	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
第1分野	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりでみようとする。	物質やエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、物質やエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
第2分野	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究するとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

生活

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 生活>

観点	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
趣旨	身近な環境や自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習したり、生活したりしようとする。	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 生活>

学年	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
第1学年及び第2学年	身近な人、社会、自然及び自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく意欲的に学習したり、生活したりしようとする。	調べたり、育てたり、作ったりするなどの活動や学校、家庭、地域における自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、学校、家庭、地域、公共物、身近な自然、動植物、自分の成長などの様子、それらと自分とのかかわり及び自分自身のよさに気付いている。

音楽

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 音楽>

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。

<中学校 音楽>

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 音楽>

学年	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第1学年及び第2学年	楽しく音楽にかかわり、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いをもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲や演奏の楽しさに気付き、味わって聴いている。
第3学年及び第4学年	進んで音楽にかかわり、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を伸ばし、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、味わって聴いている。

学年	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第5学年及び第6学年	創造的に音楽にかかわり、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組みようとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を高め、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴いている。

<中学校 音楽>

学年	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第1学年	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組みようとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
第2学年及び第3学年	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を高め、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組みようとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、ふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を伸ばし、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽に対する理解を深め、味わって聴いている。

図画工作・美術

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 図画工作>

観点	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣旨	自分の思いをもち、進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	感覚や経験を生かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	作品などの形や色などから、表現の面白さをとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

<中学校 美術>

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。	感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 図画工作>

学年	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第1学年及び第2学年	思いのままに表したり、作品などを見たりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、つくり方などを考えたりしている。	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い、工夫して表している。	身の回りの作品などの形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。
第3学年及び第4学年	自分の思いで表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	手や体全体の感覚を働かせながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	身近にある作品などの形や色などから、表現の感じの違いをとらえたり、よさや面白さを感じ取ったりしている。

観点 学年	造形への関心・意欲・ 態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第5 学年 及び 第6 学年	自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途や構成などを考えたりしている。	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫している。	親しみのある作品などの形や色などから、表現の意図や特徴をとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

<中学校 美術>

観点 学年	美術への関心・意欲・ 態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第1 学年	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身に付けるために、主体的に学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に豊かに発想し、形や色彩の構成などを工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えたりし、創意工夫して表している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中の美術の働きなどを感じ取り見方を広げたり、美術文化の特性やよさに気付いたりしている。
第2 学年 及び 第3 学年	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を高めるために、主体的に学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、対象を深く見詰め、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし、形や色彩などの効果を生かし、心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、表現の意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えたりするなどし、創意工夫して創造的に表している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。

家庭、技術・家庭

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 家庭>

観点	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
趣旨	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気づき、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して生活をよりよくするために考え自分なりに工夫している。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

<中学校 技術・家庭>

観点	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
趣旨	生活や技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする。	生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解している。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 家庭>

観点 学年	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
第5学年及び第6学年	自分の成長と衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気づき、家族の一員として家庭生活をよりよくするために進んで取り組み実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりしている。	生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	家庭生活を支えているものや大切さを理解し、日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

<中学校 技術・家庭(技術分野)>

観点 分野	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
技術分野	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術について関心をもち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のために、主体的に技術を評価し活用しようとする。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに、その解決のために工夫し創造して、技術を評価し活用している。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術についての基礎的・基本的な知識を身に付け、技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。

< 中学校 技術・家庭 (家庭分野) >

観点 分野	生活や技術への関心・ 意欲・態度	生活を工夫し創造する 能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
家庭 分野	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

体育・保健体育

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 体育>

観点	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
趣 旨	運動に進んで取り組む とともに、友達と協力 し、安全に気を付けよ うとする。また、身近 な生活における健康・ 安全について関心をも ち、意欲的に学習に取 り組もうとする。	自己の能力に適した課 題の解決を目指して、 運動の仕方を工夫して いる。また、身近な生 活における健康・安全 について、課題の解決 を目指して考え、判断 し、それらを表してい る。	運動を楽しく行うため の基本的な動きや技能 を身に付けている。	身近な生活における健 康・安全について、課 題の解決に役立つ基礎 的な事項を理解してい る。

<中学校 保健体育>

観点	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全につ いての知識・理解
趣 旨	運動の楽しさや喜びを 味わうことができるよ う、運動の合理的な実 践に積極的に取り組も うとする。また、個人 生活における健康・安 全について関心をもち、 意欲的に学習に組み 組もうとする。	生涯にわたって運動に 親しむことを目指して、 学習課題に応じた運動 の取り組み方や健康の 保持及び体力を高める ための運動の組み合わ せ方を工夫している。 また、個人生活におけ る健康・安全について、 課題の解決を目指して 考え、判断し、それら を表している。	運動の合理的な実践を 通して、運動の特性に 応じた基本的な技能を 身に付けている。	運動の合理的な実践に 関する具体的な事項及 び生涯にわたって運動 に親しむための理論に ついて理解している。 また、個人生活におけ る健康・安全について、 課題の解決に役立つ基 礎的な事項を理解して いる。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 体育>

学年	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
第 1 学 年	運動に進んで取り組む とともに、だれとでも 仲よく、健康・安全に 留意しようとする。	運動の仕方を工夫して いる。	運動を楽しく行うため の基本的な動きを身に 付けている。	
第 2 学 年	運動に進んで取り組む とともに、だれとでも 仲よく、健康・安全に 留意しようとする。	運動の仕方を工夫して いる。	運動を楽しく行うため の基本的な動きを身に 付けている。	

観点 学年	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
第 3 学 年	<p>運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り互いに協力し、健康・安全に留意しようとする。さらに、健康な生活について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p>	<p>自己の能力に適した課題をもち、運動の仕方を工夫している。また、健康な生活について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。</p>	<p>運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。</p>	<p>健康な生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p>
第 4 学 年	<p>運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り互いに協力し、健康・安全に留意しようとする。さらに、体の発育・発達について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p>	<p>自己の能力に適した課題をもち、運動の仕方を工夫している。また、体の発育・発達について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。</p>	<p>運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。</p>	<p>体の発育・発達について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p>
第 5 学 年	<p>運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。さらに、心の健康やけがの防止について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p>	<p>自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。また、心の健康やけがの防止について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。</p>	<p>運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>心の健康やけがの防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p>
第 6 学 年	<p>運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。さらに、病気の予防について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p>	<p>自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。また、病気の予防について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。</p>	<p>運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>病気の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p>

<中学校 保健体育>

観点 分野・学年	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全につ いての知識・理解
第1学年及び第2学年 体育分野	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとする。	運動を豊かに実践するための課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、体力を高めるための運動を組み合わせ方を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツが心身の発達に与える効果についての考え方を理解している。
第3学年 体育分野	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとする。	生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、自己の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義の考え方を理解している。
保健分野	心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して科学的に考え、判断し、それらを表している。	-	心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

外国語

(1) 評価の観点及びその趣旨

<中学校 外国語>

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<中学校 外国語>

観点 学年	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
第1学年、第2学年及び第3学年	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

2. 外国語活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 外国語活動の記録>

観 点	コミュニケーションへの関心 ・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣 旨	コミュニケーションに関心を もち、積極的にコミュニケー ションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞 いたり話したりしながら、外 国語の音声や基本的な表現に 慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミ ュニケーション活動を通して、 言葉の面白さや豊かさ、多様 なものの見方や考え方がある ことなどに気付いている。

3. 特別活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 特別活動の記録>

観 点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
趣 旨	学級や学校の集団や自己の生活に関心を持ち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

<中学校 特別活動の記録>

観 点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
趣 旨	学級や学校の集団や自己の生活に関心を持ち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

4. 行動の記録

(1) 評価項目及びその趣旨

<小学校 行動の記録>

項目	学年	趣 旨
基本的な生活習慣	第1学年及び第2学年	安全に気を付け、時間を守り、物を大切にし、気持ちのよいあいさつを行い、規則正しい生活をする。
	第3学年及び第4学年	安全に努め、物や時間を有効に使い、礼儀正しく節度のある生活をする。
	第5学年及び第6学年	自他の安全に努め、礼儀正しく行動し、節度を守り節制に心掛ける。
健康・体力の向上	第1学年及び第2学年	心身の健康に気を付け、進んで運動をし、元気に生活をする。
	第3学年及び第4学年	心身の健康に気を付け、運動をする習慣を身に付け、元気に生活をする。
	第5学年及び第6学年	心身の健康の保持増進と体力の向上に努め、元気に生活をする。
自主・自律	第1学年及び第2学年	よいと思うことは進んで行い、最後までがんばる。
	第3学年及び第4学年	自らの目標をもって進んで行い、最後までねばり強くやり通す。
	第5学年及び第6学年	夢や希望をもってより高い目標を立て、当面の課題に根気強く取り組み、努力する。
責任感	第1学年及び第2学年	自分でやらなければならないことは、しっかりと行う。
	第3学年及び第4学年	自分の言動に責任をもち、課せられた役割を誠意をもって行う。
	第5学年及び第6学年	自分の役割と責任を自覚し、信頼される行動をする。
創意工夫	第1学年及び第2学年	自分で進んで考え、工夫しながら取り組む。
	第3学年及び第4学年	自分でよく考え、課題意識をもって工夫し取り組む。
	第5学年及び第6学年	進んで新しい考えや方法を求め、工夫して生活をよりよくしようとする。
思いやり・協力	第1学年及び第2学年	身近にいる人々に温かい心で接し、親切にし、助け合う。
	第3学年及び第4学年	相手の気持ちや立場を理解して思いやり、仲よく助け合う。
	第5学年及び第6学年	思いやりと感謝の心をもち、異なる意見や立場を尊重し、力を合わせて集団生活の向上に努める。
生命尊重・自然愛護	第1学年及び第2学年	生きているものに優しく接し、自然に親しむ。
	第3学年及び第4学年	自他の生命を大切にし、生命や自然のすばらしさに感動する。
	第5学年及び第6学年	自他の生命を大切にし、自然を愛護する。
勤労・奉仕	第1学年及び第2学年	手伝いや仕事を進んで行う。
	第3学年及び第4学年	働くことの大切さを知り、進んで働くようにする。
	第5学年及び第6学年	働くことの意義を理解し、人や社会の役に立つことを考え、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	第1学年及び第2学年	自分の好き嫌いや利害にとらわれなくて行動する。
	第3学年及び第4学年	相手の立場に立って公正・公平に行動する。
	第5学年及び第6学年	だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく、正義を大切にし、公正・公平に行動する。
公共心・公德心	第1学年及び第2学年	約束やきまりを守って生活し、みんなが使うものを大切に
	第3学年及び第4学年	約束や社会のきまりを守って公德を大切にし、人に迷惑を
	第5学年及び第6学年	規則を尊重し、公德を大切にするとともに、郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、学校や人々の役に立つことを進んで行う。

<中学校 行動の記録>

項 目	学 年	趣 旨
基本的な生活習慣	第1学年, 第2学年 及び第3学年	自他の安全に努め, 礼儀正しく節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
健康・体力の向上	第1学年, 第2学年 及び第3学年	活力ある生活を送るための心身の健康の保持増進と体力の向上に努めている。
自主・自律	第1学年, 第2学年 及び第3学年	自分で考え, 的確に判断し, 自制心をもって自律的に行動するとともに, より高い目標の実現に向けて計画を立て根気強く努力する。
責任感	第1学年, 第2学年 及び第3学年	自分の役割を自覚して誠実にやり抜き, その結果に責任を負う。
創意工夫	第1学年, 第2学年 及び第3学年	探究的な態度をもち, 進んで新しい考えや方法を見つけ, 自らの個性を生かした生活を工夫する。
思いやり・協力	第1学年, 第2学年 及び第3学年	だれに対しても思いやりと感謝の心をもち, 自他を尊重し広い心で共に協力し, よりよく生きていこうとする。
生命尊重・自然愛護	第1学年, 第2学年 及び第3学年	自他の生命を尊重し, 進んで自然を愛護する。
勤労・奉仕	第1学年, 第2学年 及び第3学年	勤労の尊さや意義を理解して望ましい職業観をもち, 進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	第1学年, 第2学年 及び第3学年	正と不正を見極め, 誘惑に負けることなく公正な態度がとれ, 差別や偏見をもつことなく公平に行動する。
公共心・公徳心	第1学年, 第2学年 及び第3学年	規則を尊重し, 公徳を大切にするとともに, 我が国の伝統と文化を大切に, 国際的視野に立って公共のために役に立つことを進んで行う。

各教科の評価の観点及びその趣旨（高等学校及び特別支援学校高等部）

1. 各学科に共通する各教科・科目の学習の記録

教科	観 点	趣 旨
国 語	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。
	書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。
	読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
	知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
地 理 歴 史	関心・意欲・態度	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。
	思考・判断・表現	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	資料活用の技能	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	知識・理解	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
公 民	関心・意欲・態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。
	思考・判断・表現	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	資料活用の技能	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	知識・理解	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

教科	観 点	趣 旨
数 学	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
理 科	関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	観察・実験の技能・表現	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
	知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
保 健 体 育	関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。
	思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。
	運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
	知識・理解	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

教科	観 点	趣 旨		
芸 術	音 楽	音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	
		音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	
		音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	
		鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	
	美 術	美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	
		発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	
		創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	
	工 芸	鑑賞の能力	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	
		工 芸	工芸への関心・意欲・態度	工芸の創造活動の喜びを味わい、工芸や工芸の伝統と文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。
			発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、よさや美しさなどを考え制作の構想を練っている。
			創造的な技能	創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。
	鑑賞の能力		工芸や工芸の伝統と文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	
書 道	書 道	書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	
		書表現の構想と工夫	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	
		創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	
		鑑賞の能力	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	

教科	観 点	趣 旨
外 国 語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
	外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
	外国語理解の能力	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
	言語や文化についての知識・理解	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。
家 庭	関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。
	技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
	知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。
情 報	関心・意欲・態度	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。
	思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。
	技能	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。
	知識・理解	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。

2. 主として専門学科において開設される各教科・科目の学習の記録

教科	観 点	趣 旨
農 業	関心・意欲・態度	農業に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	農業に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	農業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、農業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業の意義や役割を理解している。
工 業	関心・意欲・態度	工業技術に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	工業技術に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	工業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
商 業	関心・意欲・態度	ビジネスの諸活動に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	ビジネスの諸活動に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解している。

教科	観 点	趣 旨
水 産	関心・意欲・態度	水産や海洋に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	水産や海洋に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、水産業や海洋関連産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、水産や海洋に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、水産業や海洋関連産業の意義や役割を理解している。
家 庭	関心・意欲・態度	生活産業を取り巻く諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	生活産業を取り巻く諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、生活産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	生活産業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生活産業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	生活産業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活産業の社会的な意義や役割を理解している。
看 護	関心・意欲・態度	看護に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、看護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	看護の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、看護に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、看護の意義や役割を理解している。

教科	観 点	趣 旨
情 報	関心・意欲・態度	情報の各分野に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	情報の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、情報産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	情報の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、情報の各分野に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における情報及び情報産業の意義や役割を理解している。
福 祉	関心・意欲・態度	社会福祉に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	社会福祉に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	社会福祉の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、福祉に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	社会福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割を理解している。
理 数	関心・意欲・態度	自然の事物・現象や数学的事象に関心をもち、積極的にそれらを探究しようとするとともに、事象を科学的・数学的に考察し表現する態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし探究する過程を通して、事象を科学的、創造的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。また、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的、創造的に考察し的確に表現している。
	技能	観察、実験の基本操作及び自然の事物・現象を探究する技能を身に付けている。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
	知識・理解	科学や数学における基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、知識を身に付けている。

教科	観 点	趣 旨
体 育	関心・意欲・態度	スポーツ文化を尊重し、主体的、合理的、計画的に、各科目の学習に取り組もうとする。
	思考・判断	生涯を通してスポーツの振興発展に寄与することを目指して、各科目の課題に応じた運動や学習の取り組み方、健やかな心身の高め方や維持の仕方を工夫している。
	運動の技能	高度な技能の習得を目指して、各科目の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
	知識・理解	スポーツの専門的な実践に関する具体的な事項及びスポーツの振興発展に寄与するための理論について理解している。
音 楽	音楽への関心・意欲・態度	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習に取り組もうとする。
	音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。
	音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。
	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
美 術	美術への関心・意欲・態度	美術文化を尊重し、主体的、創造的に美術の学習に取り組もうとする。
	発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、創造的・機能的で個性豊かな表現の構想を練っている。
	創造的な技能	創造的な表現活動をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身に付け、表現方法を創意工夫して表現している。
	鑑賞の能力	美術作品や文化遺産、美術文化などについて理解を深め、感性や想像力を働かせて価値や美意識を感じ取り、創造的に味わっている。
英 語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
	英語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
	英語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
	言語や文化についての知識・理解	英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

3. 視覚障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校高等部における各教科・科目の学習の記録

教科	観 点	趣 旨
保 健 理 療	関心・意欲・態度	保健理療に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、探究的、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	保健理療に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	保健理療の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、保健理療に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	保健理療の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における保健理療の意義や役割を理解している。

4. 聴覚障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校高等部における各教科・科目の学習の記録

教科	観 点	趣 旨
印 刷	関心・意欲・態度	印刷に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	印刷に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	印刷の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、印刷に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	印刷の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、印刷の意義や役割を理解している。

教科	観 点	趣 旨
理 容 ・ 美 容	関心・意欲・態度	理容・美容に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	理容・美容に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	理容・美容の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、理容・美容に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	理容・美容の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理容・美容の意義や役割を理解している。
ク リ ー ニ ン グ	関心・意欲・態度	クリーニングに関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	クリーニングに関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
	技能	クリーニングの各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、クリーニングに関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
	知識・理解	クリーニングの各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、クリーニングの意義や役割を理解している。

小学校児童指導要録 (参考様式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3	4	5	6
学級							
整理番号							

学 籍 の 記 録							
児 童	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学	
	氏名					第 学年編入学	
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	平成 年 月 日 第 学年転入学		
	現住所						
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日)		
	氏名				平成 年 月 日		
	現住所			卒業	平成 年 月 日		
入学前の経歴				進学先			
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)							
年 度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
区分	学年	1		2		3	
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							
年 度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
区分	学年	4		5		6	
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							

児童氏名

行 動 の 記 録														
項 目	学 年	1						2						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
基本的な生活習慣								思いやり・協力						
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護						
自主・自律								勤労・奉仕						
責任感								公正・公平						
創意工夫								公共心・公德心						

総合所見及び指導上参考となる諸事項			
第 1 学 年		第 4 学 年	
第 2 学 年		第 5 学 年	
第 3 学 年		第 6 学 年	

出 欠 の 記 録						
区分	授業日数	出席停止・ 引当の日数	出席しなれば ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						
4						
5						
6						

中 学 校 生 徒 指 導 要 録 (参 考 様 式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3
学 級				
整理番号				

学 籍 の 記 録							
生 徒	ふりがな			性別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学	第 学年編入学
	氏 名					平成 年 月 日 第 学年転入学	
	生年月日	平成 年 月 日生		転 入 学	転 入 学		
	現住所						
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日) 平成 年 月 日		
	氏 名					卒 業	平成 年 月 日
	現住所			進 学 先 就 職 先 等			
入学前の経歴							
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)							
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度		
区分 / 学年	1		2		3		
校長氏名印							
学級担任者 氏 名 印							

生徒氏名

行動の記録									
項目	学年	1	2	3	項目	学年	1	2	3
基本的な生活習慣					思いやり・協力				
健康・体力の向上					生命尊重・自然愛護				
自主・自律					勤労・奉仕				
責任感					公正・公平				
創意工夫					公共心・公德心				

総合所見及び指導上参考となる諸事項

第1学年	
第2学年	
第3学年	

出欠の記録						備考
区分	授業日数	出席停止・ 遅刻等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	
1						
2						
3						

高等学校 (全日制の課程・定時制の課程) 生徒指導要録 (参考様式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3	4
ホームルーム					
整理番号					

学 籍 の 記 録						
生 徒	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学
	氏名					第 学年編入学
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	平成 年 月 日	
	現住所			転学・退学等	平成 年 月 日	
保 護 者	ふりがな			留 学 等	平成 年 月 日	
	氏名				～平成 年 月 日	
	現住所			卒 業	平成 年 月 日	
入学前の経歴		平成 年 中学校卒業		進 学 先 就 職 先 等		
学 校 名 及 び 所 在 地 (校名・所在地等)						
課程名・学科名						
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度	
学 年	1		2		3	
校長氏名印						
ホームルーム 担任者氏名印						

各教科・科目等の修得単位数の記録

普通教育に関する各教科・科目	教科	科目	修得単位数の計
	国語		国語総合
		略	
		〃	
地理歴史		〃	
		〃	
		〃	
公民		〃	
		〃	
		〃	
数学		〃	
		〃	
		〃	
理科		〃	
		〃	
		〃	
躰育		〃	
		〃	
		〃	
芸術		〃	
		〃	
		〃	
外国語		〃	
		〃	
		〃	

専門教育に関する	教科	科目	修得単位数の計
	家庭		〃
		〃	
		〃	
情報		〃	
		〃	
		〃	
学校設定教科		〃	
		〃	
		〃	
農業		〃	
		〃	
		〃	
工業		〃	
		〃	
		〃	
商業		〃	
		〃	
		〃	
水産		〃	
		〃	
		〃	
家庭		〃	
		〃	
		〃	
看護		〃	
		〃	

各教科・科目	教科	科目	修得単位数の計
	情報		〃
		〃	
		〃	
福祉		〃	
		〃	
		〃	
理数		〃	
		〃	
		〃	
体育		〃	
		〃	
		〃	
音楽		〃	
		〃	
		〃	
美術		〃	
		〃	
		〃	
英語		〃	
		〃	
		〃	
学校設定教科		〃	
		〃	
		〃	

総合的な学習の時間	
-----------	--

留学	
----	--

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分\学年	1	2	3	4
		ホームルーム				
		整理番号				

各教科・科目等		各教科・科目等の学習の記録							備考
		第1学年 評定	第2学年 修得単位数 評定	第3学年 修得単位数 評定	第4学年 修得単位数 評定	修得単位数 の計			
普通教育に関する教科科目	国語総合								
	略								
	語地歴								
	理史公								
	民数								
	学理								
	科保健								
	術外国語								
	庭情								
	報定校設								
	農工業商業水産家庭看護情報福祉								
	理数体育音楽美術英語								
	学定校設								
	総合的な学習の時間								
	小計								
	留学								
	合計								

生徒氏名

総合的な学習の時間の記録	
学習活動	
評価	

特別活動の記録			
第1学年	第2学年	第3学年	第4学年

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	
第4学年	

出欠の記録							備考
区分	授業日数	出席停止・ 忌避の日数	留学中の 授業日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	
1							
2							
3							
4							

高等学校 (通信制の課程) 生徒指導要録 (参考様式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分	年度	平成	年度										
ホームルーム													
整理番号													

学 籍 の 記 録														
生 徒	ふりがな													
	氏名	性別		入学・編入学等		平成 年 月 日					入学 編入学			
	生年月日	平成 年 月 日生			転入学		平成 年 月 日							
	現住所			転学・退学等		平成 年 月 日								
保 護 者	ふりがな													
	氏名			留学等		平成 年 月 日 ~平成 年 月 日								
	現住所			卒業		平成 年 月 日								
入学前の経歴		平成 年 中学校卒業			進学先 就職先等									
学校名 及 び 所 在 地														
学科名														
年 度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
校長氏名印														
ホームルーム 担任者氏名印														

各教科・科目等の修得単位数の記録

普通教育に関する各教科・科目	教科	科目	修得単位数の計
	国語	国語	国語総合
略			
〃			
地理歴史	地理歴史	〃	
		〃	
		〃	
公民	公民	〃	
		〃	
		〃	
数学	数学	〃	
		〃	
		〃	
理科	理科	〃	
		〃	
		〃	
保健	保健	〃	
		〃	
芸術	芸術	〃	
		〃	
		〃	
外国語	外国語	〃	
		〃	

専門教育に関する	教科	科目	修得単位数の計	
	専門教育に関する	家庭	〃	
〃				
〃				
情報		情報	〃	
			〃	
			〃	
学校設定教科		学校設定教科	〃	
			〃	
			〃	
			〃	
			〃	
農業		農業	〃	
	〃			
工業	工業	〃		
		〃		
商業	商業	〃		
		〃		
水産	水産	〃		
		〃		
家庭	家庭	〃		
		〃		
看護	看護	〃		
		〃		

各教科・科目	教科	科目	修得単位数の計
	各教科・科目	情報	〃
〃			
福祉		〃	
		〃	
数理		〃	
		〃	
体育		〃	
		〃	
音楽		〃	
		〃	
美術		〃	
		〃	
英語		〃	
		〃	
学校設定教科		学校設定教科	〃
	〃		
	〃		

総合的な学習の時間	
-----------	--

留学	
----	--

[視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校]

小学部児童指導要録(参考様式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分 \ 学年	1	2	3	4	5	6
学 級						
整理番号						

学 籍 の 記 録						
児 童	ふりがな		性別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学	
	氏名				第 学年編入学	
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	平成 年 月 日 第 学年転入学	
	現住所					
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日)	
	氏名				平成 年 月 日	
	現住所			卒業	平成 年 月 日	
入学前の経歴				進学先		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)						
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度	
区分 \ 学年	1		2		3	
校長氏名印						
学級担任者 氏 名 印						
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度	
区分 \ 学年	4		5		6	
校長氏名印						
学級担任者 氏 名 印						

児童氏名

行 動 の 記 録															
項 目	学 年	1						項 目	学 年	1					
		1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公德心							

自 立 活 動 の 記 録										入学時の障害の状態
第1学年					第4学年					
第2学年					第5学年					
第3学年					第6学年					

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項									
第1学年					第4学年				
第2学年					第5学年				
第3学年					第6学年				

出 欠 の 記 録							備 考
区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	学年	
1							
2							
3							
4							
5							
6							

[視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校]

中 学 部 生 徒 指 導 要 録 (参 考 様 式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3
学 級				
整理番号				

学 籍 の 記 録						
生 徒	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学
	氏 名					第 学年編入学
	生年月日	平成 年 月 日生		転 入 学	平成 年 月 日 第 学年転入学	
	現住所					
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日)	
	氏 名				平成 年 月 日	
	現住所			卒 業	平成 年 月 日	
入学前の経歴				進 学 先 就 職 先 等		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)						
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度	
区分 / 学年	1		2		3	
校 長 氏 名 印						
学 級 担 任 者 氏 名 印						

生徒氏名

項目	学年			項目			学年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
基本的な生活習慣				思いやり・協力					
健康・体力の向上				生命尊重・自然愛護					
自主・自律				勤労・奉仕					
責任感				公正・公平					
創意工夫				公共心・公德心					

自立活動の記録		入学時の障害の状態
第1学年		
第2学年		
第3学年		

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

区分	出欠の記録					備考
	授業日数	出席停止・ 引当の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	
1						
2						
3						

[視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校]

高等部生徒指導要録(参考様式)

様式1(学籍に関する記録)

区分 \ 学年	1	2	3
ホームルーム			
整理番号			

学 籍 の 記 録					
生 徒	ふりがな		性 別		入学・編入学等 平成 年 月 日 第1学年入学 第 学年編入学
	氏名				転入学 平成 年 月 日
	生年月日	平成 年 月 日生	転学・退学等		平成 年 月 日
	現住所				平成 年 月 日
保 護 者	ふりがな		留 学 等		平成 年 月 日 ~平成 年 月 日
	氏名				卒 業
	現住所		入学前の経歴	平成 年 卒業	進学先 就職先等
学校名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)					
学科名					
年 度	平成 年度	平成 年度	平成 年度		
学 年	1	2	3		
校長氏名印					
ホームルーム 担任者氏名印					

各教科・科目等の修得単位数の記録

普通教育に関する各教科・科目	教科	科目	修得単位数の計
	国語		国語総合
		略	
		〃	
地理歴史		〃	
		〃	
		〃	
公民		〃	
		〃	
		〃	
数学		〃	
		〃	
		〃	
理科		〃	
		〃	
		〃	
保健		〃	
		〃	
		〃	
芸術		〃	
		〃	
		〃	
外国語		〃	
		〃	
		〃	
家庭		〃	
		〃	
		〃	

専門教育に関する	教科	科目	修得単位数の計
	情報		〃
		〃	
		〃	
学校設定教科		〃	
		〃	
		〃	
		〃	
		〃	
		〃	
農業		〃	
		〃	
工業		〃	
		〃	
商業		〃	
		〃	
水産		〃	
		〃	
家庭		〃	
		〃	
看護		〃	
		〃	
情報		〃	
		〃	
福祉		〃	
		〃	
理数		〃	
		〃	

各教科・科目	教科	科目	修得単位数の計
	体育		〃
		〃	
		〃	
音楽		〃	
		〃	
		〃	
美術		〃	
		〃	
		〃	
英語		〃	
		〃	
		〃	
保健理療		〃	
		〃	
		〃	
印刷		〃	
		〃	
		〃	
理容・美容		〃	
		〃	
		〃	
カリク		〃	
		〃	
		〃	
学校設定教科		〃	
		〃	
		〃	

総合的な学習の時間	
-----------	--

自立活動	
------	--

留学	
----	--

生徒氏名

総合的な学習の時間の記録	
学習活動	
評価	

特別活動の記録			入学時の障害の状態
第1学年	第2学年	第3学年	

自立活動の記録	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

出欠の記録						
区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	留学中の 授業日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数
学年						
1						
2						
3						

小学部児童指導要録(参考様式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3	4	5	6
学級							
整理番号							

学籍の記録							
児童	ふりがな		性別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学		
	氏名				第 学年編入学		
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	平成 年 月 日 第 学年転入学		
	現住所						
保護者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日)		
	氏名				平成 年 月 日		
	現住所			卒業	平成 年 月 日		
入学前の経歴				進学先			
学校名 及び 所在地 (分校名・所在地等)							
年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
区分	学年	1		2		3	
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							
年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
区分	学年	4		5		6	
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							

様式2 (指導に関する記録)

児童氏名	学校名	区分	1	2	3	4	5	6	
		学年							
		学級							
		整理番号							

各教科・特別活動・自立活動の記録							
学年	1	2	3	4	5	6	
教科等							
生活							
国語							
算数							
音楽							
図画工作							
体育							
特別活動							
自立活動							

児童氏名

行 動 の 記 録		入学時の障害の状態
第1学年	第4学年	
第2学年	第5学年	
第3学年	第6学年	

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	第4学年
第2学年	第5学年
第3学年	第6学年

出 欠 の 記 録						備 考
区分	授業日数	出席停止・ 遅刻等の日数	出席しなかつた 日数	欠席日数	出席日数	
1						
2						
3						
4						
5						
6						

中学部生徒指導要録 (参考様式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分 / 学年	1	2	3
学 級			
整理番号			

学 籍 の 記 録					
生 徒	ふりがな		性別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学 第 学年編入学
	氏 名				
	生年月日	平成 年 月 日生	転入学	平成 年 月 日 第 学年転入学	
	現住所				
保 護 者	ふりがな		転学・退学等	(平成 年 月 日) 平成 年 月 日	
	氏 名				
	現住所		卒業	平成 年 月 日	
入学前の経歴			進学先 就職先等		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)					
年 度	平成 年度	平成 年度	平成 年度		
区分 / 学年	1	2	3		
校長氏名印					
学級担任者 氏 名 印					

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分	学年	1	2	3
		学級				
		整理番号				

各教科・特別活動・自立活動の記録			
学年	1	2	3
教科等			
国語			
社会			
数学			
理科			
音楽			
美術			
保健体育			
職業・家庭			
その他			
特別活動			
自立活動			

生徒氏名

総合的な学習の時間の記録			入学時の障害の状態
学年	学習活動	観点 評 価	
第1学年			
第2学年			
第3学年			

行 動 の 記 録	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

出 欠 の 記 録						
区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						

高等部生徒指導要録 (参考様式)

様式1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3
ホームルーム				
整理番号				

学 籍 の 記 録						
生 徒	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学 第 学年編入学
	氏名					
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	平成 年 月 日	
	現住所			転学・退学等	平成 年 月 日	
保 護 者	ふりがな			留 学 等	平成 年 月 日 ~平成 年 月 日	
	氏名					
	現住所			卒 業	平成 年 月 日	
入学前の経歴		平成 年 卒業		進 学 先 就 職 先 等		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)						
学 科 名						
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度	
学 年	1		2		3	
校 長 氏 名 印						
ホ ー ム ル ー ム 担 任 者 氏 名 印						

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名		学校名		区分	学年	1	2	3
				ホームルーム				
				整理番号				
各教科・特別活動・自立活動の記録								
学年		1	2	3				
教科等								
国語								
社会								
数学								
理科								
音楽								
美術								
保健体育								
職業								
家庭								
専門教科								
その他								
特別活動								
自立活動								
総授業 時数								

生徒氏名

総合的な学習の時間の記録		入学時の障害の状態
学習活動		
評価		

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

出欠の記録							備考
区分	授業日数	出席停止・ 居欠の日数	留学中の 授業日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	
1							
2							
3							